

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター仔鹿園		
○保護者評価実施期間	令和6年11月8日		～ 令和6年11月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4 5名	(回答者数) 41名
○従業者評価実施期間	令和6年12月13日		～ 令和6年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1 2名	(回答者数) 1 2名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設の広い敷地を利用したのびのびとした環境構成。	また保育室内の物の配置や環境構成を工夫して子どもたちが利用しやすい様に整えている所。	施設全体で環境構成を常に見直し、個別にあった人・物・配置を検討していく。
2	応用行動分析の考えを基にしたこどものアセスメントと個別支援計画の作成。	保護者のニーズの把握、こどものアセスメントとを通して個別の支援目標を設定し、支援を行っている。	引き続き、個別支援計画を基にして根拠のある子どもへの支援を行っていく。
3	定期的に個別の療育相談や、家族を含めた行事など家族支援を行っていること。	個別の療育相談を行うことで、都度出てくる家族の不安や、支援への取り組み方、今後の進路など家族が抱く悩みや不安に寄り添い支援している。また毎日の連絡帳を通じてその日の出来事や、成長を共有している。	引き続き家族の思いに寄り添いながら家族支援を継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりや定期的な交流について	コロナウイルスの流行などでこれまでに行っていた地域園との交流の機会が減っている。	今後は、可能な範囲で交流などもしていければと考えている。
2	業務内容のDX化が進みにく状況がある。	施設のハード面での対応と、経費等の問題がある。	業務改善等を検討しながら段階的なDX化を検討していきたい。
3			